



三池炭鉱<sup>1</sup>をかかえる炭鉱町として、昭和 30 年代の最盛期には 20 万人を超え、九州で 8 番目の人口を抱える都市に成長した。

言い伝えによれば、この地域での石炭採掘は、室町時代の文明元年（1469）までさかのぼる。稲荷（とうか）村（現在の大牟田市大浦町付近）の農夫が稲荷山に薪を取りに行つて焚き火をした際、傍らの黒い石が燃えるのを発見した。それから、薪代わりに村人がこの黒い石の採掘を行ったのがこの辺りでの石炭採掘の始まりといわれている。

その後、江戸時代には柳川藩の小野春信が功勞により平野山を賜り、ここに居を構えて平野石炭山を創業した。およそ 150 年間、子孫たちはその周辺にまで鉱区を拡張し、一族が経営を続けた。石炭の用途としては、主に瀬戸内地方の製塩用燃料として販売されていたのである。しかし、明治期になると富国強兵政策を推し進める明治政府は、石炭をはじめとする鉱物資源の活用が重要であると考え、採掘権の国有化を行うこととした。

明治 6 年（1873）太政官布告第 259 号を以つて「日本坑法」が發布され、発見する鉱物は全て政府の所有物であり政府のみが採掘の権利があるとした。このため平野石炭山も官営化されることになった。

しかし、同法は民間資本を否定したのではなく、官鉱約 10 鉱以外は借区料・坑物料を納めれば民間による採掘は自由であった。この政策により、結局、資力のある者に採掘が集中することになった。

ちなみに、明治 10 年代前半から後半における官鉱の産出高を見ると、金 73～47%、銀 56～30%、銅 7～3%、鉄 25～34%、石炭 17～21%を占めた。これによれば、金銀は政府

が掌握し、輸出重要鉱物の銅は民業に委ねられていたことがわかる。

これら官営事業の多くは赤字経営から脱することができず、明治 10 年（1877）の「西南の役」以降インフレが進行し、官営制度の見直しが迫られていた。

そして、明治 13 年（1880）「工場払下概則」が布達され、官業の比率が下がっていく中で、鉱山の払い下げも布達され、長期年賦で民間の手に移っていくこととなった。

この中であつて、官営の三池炭鉱は相当の収益により国庫を潤していたので、政府は手放すことを渋り、なかなか払い下げは実現しなかった。しかし、時勢の流れの中で、ついに明治 21 年（1888）8 月 1 日に公開入札が行われ、三池炭礦社に翌年の 1 月 1 日、払い下げられることになった。これまで、他の赤字官営事業が指名払い下げであつたのに対して、競争入札による払い下げが行われることになり、さらに最低入札価格も 400 万円という高い価格が設定されたのである。

公開入札は佐々木八郎（三井が名を借りた人物）が一番札 455 万 5 千円で落札し、二番札の三菱との差は僅か 2300 円であつた。この入札価格を現在の価格に換算すると、米価換算で 500 億円になるようである。

この旧三池炭鉱宮浦坑（現宮浦石炭記念公園）にそびえ建っている、煉瓦造りの煙突が、

♪月が出た出た 月が出た

♪三池炭坑の 上に出た

♪あんまり煙突が 高いので

♪さぞやお月さん 煙たかろ

と炭坑節で歌われている煙突である。

<sup>1</sup> 福岡県大牟田市と熊本県荒尾市にまたがる一帯に広がる炭坑の総称。後述の平野山もこの地域に含まれる。



旧三池炭鉱宮浦坑（現宮浦石炭記念公園）の煙突（写真提供：大牟田市）  
煙突は明治21年（1888）3月建造、高さ31.2m、上部直径2.9m、基部直径4.3m、耐火レンガ約138,000枚が使用されている。  
平成10年（1998）1月16日に登録有形文化財（第40-0004号文化庁）となった。  
この煙突の役割は、当時、第1堅坑の巻揚機の動力である蒸気を起こすため、ボイラー室で石炭を燃やしたときの煙を排出するためのものである。

## （2）炭坑節を生んだ本家－田川市

炭坑節の一般的な歌詞は

- 1 ♪月が出た出た 月が出た(ヨイイ)  
♪三池炭坑の 上に出た  
♪あんまり煙突が 高いので  
♪さぞやお月さん けむたかる(サノヨイイ)
- 2 ♪一山 二山 三山 越え(ヨイイ)

- ♪奥に咲いたる 八重つばき
  - ♪なんぼ色よく 咲いたとて
  - ♪様ちゃんが通わにゃ 仇の花(サノヨイイ)
  - 3 ♪あなたはその気で 云うのなら(ヨイイ)  
♪思い切ります 別れます  
♪もとの娘の 十八に  
♪返してくれたら 別れます(サノヨイイ)
- (以下略) である。

炭坑節の生みの親は、深町純亮著「炭坑節物語：歌いつぐヤマの歴史と人情」に詳しく記述されているので、その一部を以下に紹介する。

『(福岡県) 田川郡伊田小学校の教員であった小野芳香が明治四十三年、同小学校に併置されていた女子補修学校の生徒に試唱させたのが「伊田機械選炭節」といわれ、これは前述の伊田場打ち選炭節を踏襲したものであり、これが現在の炭坑節の起源であるというのが、今では定説になっている。

小野芳香は炭坑節の生みの親といわれ、大正四年に「三弦選炭節」を編曲、これが同十年頃から「炭坑節」と改題され、日本の民謡の五指に入るほど全国的に流行するようになった。また、大正十二年に「田川地方民謡童謡の研究」を一本にまとめるなど”生みの親”と呼ばれるにふさわしい業績を残した炭坑節生誕最大の功労者である。

小野芳香は明治二十五年、田川郡伊田村伊加利（現田川市）に出生。同四十二年、十七歳のとき伊田尋常高等小学校の代用教員となり、以来終戦の年まで教職に従事。音楽の先生としては田川郡内で有名な存在であった。

(中略)

前記「田川地方民謡童謡の研究」は当初ガリ版印刷されたものであったが、その後の研究による改定を加えて昭和十六年までに第四版を発行していた。

戦後の昭和二十六年に第五版が出されたが、

これには次のような経緯がある。

戦後の日本経済復興のためには石炭の増産が急務とされ、ラジオ、新聞などで石炭のキャンペーンが華々しく展開されて炭坑節のメロディもそのテーマ・ミュージックとして盛んに流されるようになった。レコードもいくつか出されたが、その中には「月が出た出た…三池炭坑の上に出た」という歌詞があり、炭坑節は三池炭坑で古くから歌われていた歌だという全く虚偽が活字にまでなる始末。

小野自身はかねてから「民謡は作詞・作曲者不明にしておくことが民謡としての価値を高め、床しさが強くなるものであり、一面その民謡が有名になればなるほど、もし作曲者が不名誉な行為をした場合、それが民謡そのものを疵つけることになるのを恐れ、決して作曲者であることを発表しないと決心」していたのであるが、前記のような見逃しがたい間違った説の横行に対する田川市民の反発や、真実を明らかにせよとの強い声もあって、ついに永年の誓いを破り、昭和二十六年十月二十日の田川市炭都祭を機に、炭坑節生誕以来の経緯を詳述した前記書の著作権登録を文部省に行うとともに、小倉放送局の録音版にも収録してもらって、炭坑節の田川出生とその作曲者名を天下に明らかにした次第である。』

炭坑節の中でもっとも有名な歌詞は

♪月が出た出た 月が出た

♪伊田の炭坑の 上に出た

♪あんまり煙突が 高いので

であるとしている。

ところで、昭和23年(1948)に福岡県田川郡川崎町出身の芸者歌手赤坂小梅の「正調炭坑節」がコロンビアレコードから発売されると全国的に大流行した。そして、ついに赤坂小梅は第7回(昭和29年)NHKの「紅白歌合戦」に出場し、炭坑節を披露することとなった。(当時はラジオ放送である。)

正調炭坑節の歌詞は以下のとおりである。

1 ♪香春岳(カラダケ)から 見下ろせば

♪伊田の堅坑が 真正面

♪12時下がりの サマちゃんが

♪ゲージにもたれて 思案顔

♪サノ ヨイヨイ

2 ♪一山 二山 三山 越え

♪奥に咲いたる 八重つつじ

♪なんぼ色よく 咲いたとて

♪サマちゃんが 通わにゃ 仇の花

♪サノ ヨイヨイ

3 ♪月が出た出た 月が出た

♪三井炭坑の 上に出た

♪あんまり煙突が 高いので

♪さぞやお月さん 煙たかる

♪サノ ヨイヨイ

4 ♪格子窓から 月がさす

♪サマちゃんの寝顔の 愛らしさ

♪はずした枕を すけさしょか

♪思案なかばに 明けの鐘

♪サノ ヨイヨイ

この炭坑節の二番に出てくる「♪一山 二山 三山 越え」と歌われる山は、三井の田川炭坑の西北にある香春岳のことで一の岳から三の岳までである。(現在はこのうちの一つが石灰岩のため半分程度削られてセメントの原料にされている。)また、「サマ(様)ちゃん」は、ダンナというより、愛人に近い言い方とされている。

また、当時隣町であった後藤寺町では香春岳が「船尾山」と歌われ、土地や時代に応じて変化していったことがわかる。

さらに、明治から大正時代のはじめ頃、東京で流行った歌に、

♪月が出た出た 月が出た

♪セメント会社の 上に出た

♪東京にゃ エントツが多いので

♪さぞや お月さんも 煙たかる

という歌詞がある。



一部が削り取られた香春岳 (筆者撮影)

話は戻るが、炭坑節が誕生したのは、福岡県田川市である。しかし、炭坑節にまつわる間違った説が元になったとはいえ、日本国中に広めることに貢献したのは、同じ福岡県の大牟田市である。この両都市は生みの親と育ての親という関係となっている。

ここで、両都市の後日談を紹介しておこう。前述したように、作曲者が名乗り出るような事態になっても、生誕地であるとの認知をなかなかされない。田川市側は本来の歌詞が「三池炭坑の上」ではなく「三井炭坑の上」であることに決着をつけることにした。昭和 37 年 (1962) 5 月九州朝日放送のテレビ番組「炭坑節－田川と大牟田の本家争い」で当時の坂田九十百 (つくも) 田川市長と細谷治嘉 (はるよし) 大牟田市長のトップ会談が行われたのである。

この話し合いにより、発祥の地である田川が本家、大牟田が分家とすることで一件落着をすることが出来たという。



本家三井炭鉱伊田坑の二本煙突

(筆者撮影)

煙突は明治 41 年 (1908) 3 月完成 高さ 45.45 m、上部直径 3.1m、下部直径 5.6m、耐火レンガ総計 213,000 枚、うちドイツ製 181,000 枚、国内製 32,000 枚が使用されている。

二本で 12 台のボイラーの煙を排出していた。

### (3) 大牟田市の近代化遺産

今回取材に訪れた大牟田市には、三池炭坑宮浦坑の煙突以外にも、まちの「目印」となる建造物などが数多くある。JR・西鉄大牟田駅から歩いてすぐの大牟田市庁舎は、昭和 9 年 (1934) 10 月に着工し、翌々年の 3 月に落成した鉄筋コンクリート 4 階建、中央にさらに塔屋 4 階を伸ばし、玄関上の縦のラインを強調したデザインとなっている。4 階の元貴賓室には飾りが施された漆喰壁、今は使用

されていないマントルピースやカーテンボックスが残っている。また、屋上にはコンクリート製の防空監視哨や高射砲の台座があり、本庁舎中庭の防火用水槽は手洗い場の水受けとして今も利用されている。庁舎内部は、基本的には建設当時の漆喰壁で、大理石を利用した会談や廊下はそのままであるが、OA化への対応などによって少しずつ手が加えられてきている。しかし、現役として使われている数少ない、戦前の官庁建築物である。



明治 41 年開館の旧三井港倶楽部  
(写真提供：大牟田市)



戦前の官庁建築物である大牟田市庁舎  
(写真提供：大牟田市)

明治 41 年（1908）8 月 15 日三池港の開港に合わせて開館した木造三階建瓦葺洋風建築で、三池港を訪れる上級船員用の宿泊施設として作られた。明治時代の西洋館としてハーフチンバー・スタイル（木骨様式）の旧三井港倶楽部が現存し、90 年以上が経っている。昭和 61 年（1986）に改修工事が行われ、現在はレストランや結婚式場として広く市民に開放されている。

その他、大正 5 年（1919）の竣工で市内初のコンクリート橋（二連続剛節橋）の泉橋、昭和 11 年（1936）竣工の鉄筋コンクリート 3

階建の大牟田商工会議所（現在は 1 階が地盤沈下により埋められ 2 階建）、昭和 13 年（1938）竣工で当時東洋一の高さを誇った鉄筋コンクリート 7 階建ての三井化学 J 工場などがある。

これらも、現在引き続き現役として使用されているものである。

炭都であった大牟田市には近代化遺産として、市民が目印にすることのできるものが、この他にも多数現存している。

#### 4. 生まれ故郷の忠犬ハチ公像（大館市・渋谷区）

##### （1）忠犬ハチ公の生涯

「忠犬ハチ公」は東京渋谷の都立青山霊園（青山墓地）に眠っている。ここには、忠犬ハチ公の碑が建てられている。一年四月余の短い出会いであったが、その後、物語の生みの親となる上野博士とともにある。

また、生後 50 日ほどの大正 13 年（1924）1 月 14 日大館駅を出発し、最初に降り立った上野駅に近い国立科学博物館に剥製となって、

展示されている。

忠犬ハチ公は牡の秋田犬<sup>2</sup>（あきたいぬ）で大正12年（1923）11月、秋田県大館市大子内（おおしない）の斎藤義一宅で生まれた。

生家に建つ石碑には、

忠犬ハチ公生誕の地

大正十二年秋、斎藤家に大子内山号を父犬ゴマ号を母犬として四匹の秋田犬が生まれた当時、この地では耕地整理事業が行われ

その技師たちの恩師にあたる

東京帝国大学農学部教授上野英三郎氏はかねてより秋田犬を飼いたいと望んでいた翌年の一月、その中の一匹がこの地より旅立った その列車は折悪しく地震のために遅れたがどうか無事に上野駅に到着する大正十三年一月十五日

その仔犬は上野博士の腕に抱かれ

「ハチ」と名付けられたと記されている。

大館駅を米俵に入れられて出発した仔犬は、前年9月1日の関東大震災の影響により20時間かかって上野駅に着いた。

そして、この仔犬が「ハチ」と名付けられたのは、上野博士の郷里である三重県にこの名の犬が多くいたため命名されたようで、「公」をつけて呼んだのは上野邸に同居していた書生であったともいわれている。

犬好きであった上野邸には、ハチの他にポインター種で8歳のジョンと7歳のS（エス）の二匹がいたが、博士は純系の秋田犬の仔犬であるハチを特に可愛がった。

貰われてきた頃、環境の変化になじめなかったハチは半年もすると体調を取り戻して、立派な秋田犬に成長した。そして、博士の送

り迎えをするようになり、愛情いっぱいのもとで強い絆が結ばれた。ハチの送り迎えは、渋谷区松涛にある博士宅から駒場の東京大学農学部校門と渋谷駅である。渋谷駅は西ヶ原農事試験場に行くときは山の手線、農商務省に行くときは市電であったが、ハチとジョンとSはこの3ヶ所を覚えて夕方間違えずに同じ所へ迎えに行った。



ハチ公の生家前の像と石碑

（写真提供：大館市）

この像は地元の人がつくったもので、コンクリートモルタル製である。石碑はハチ公生誕80周年を記念して、これまでの標柱に変わって設置された。

大正14年（1925）5月21日、いつものようにハチに送られて出勤した博士は大学で脳溢血に倒れ急逝されてしまった。この日はハチだけが送っていったようであるが、迎えに行っても帰って来ない博士を暗くなるまで待っていたという。そして、通夜・葬儀の間、ハチは食事を与えても口にせず、その状態はしばらく続いた。

博士の没後、上野未亡人の親戚にあたる浅草に預けられたが、夜、8km離れた渋谷方面に走っていくハチの姿がたびたび見られたという。そんな状態が1年も続いたため、ハチ

<sup>2</sup> 秋田犬はもともと大館犬（おおだていぬ）と呼ばれていたが、昭和6年（1931）7月1日に日本犬で最初の天然記念物に指定され、その指定名が秋田犬であったので、以後そのように呼ばれるようになった。

の心情を想って顔なじみの渋谷区代々木に住んでいる、かつて上野邸の植木職人であった小林菊三郎宅に預けられることになった（浅草に預けられる前に、一時日本橋にも預けられた）。

しかし、夕食を終えると小林宅から700～800mの上野邸のあたりをうろつき時間によっては直接渋谷駅に行き、改札口前にじっと座って人ごみの中から、上野博士の姿を探していた。それを夏の暑い日も冬の寒い日も雨の日も約10年にわたり続けていた。

ハチは、人や仔犬に対して決して牙を向けたり吠えたりしなかったそうである。しかし、ただ一度だけ相手の犬にかみつかれ、それから左耳が垂れてしまった。（渋谷駅前の初代と二代目、大館駅前の初代及び大館市秋田犬会館前の銅像はかみつかれた後の垂れた耳の銅像になっている。）

こうしたハチの姿にいつしか多くの人々が同情を寄せるようになり、次第に弱り始めたハチを気遣い渋谷駅の職員も面倒を見るようになった。

昭和10年（1935）、ハチは海外にも紹介され、映画化されて有名になったが、既に犬の大敵であるフェラリアに冒されていた。そして、3月5日容態が急変し、ついに3月8日、死を悟ったハチは、その直前に渋谷駅を離れ、普段行かない駅から離れた路地で13年（人間にすると90歳）の生涯を終えた。

## （2）渋谷駅前のハチ公銅像の建設

昭和7年（1932）10月4日、東京朝日新聞に「いとしや老犬物語 今は世になき主人の帰りを待ち兼ねる七年間」というタイトルで主人を待ち続けるハチが記事になった。それ以外にも、新聞ラジオなどで報道された老犬ハチの元には、次々と多くの人々から見舞金

などが送られてきた。同年11月日本犬展に招待犬として招かれるなど、ハチの名は全国的に知られるようになり、この頃から「ハチ公」と尊称で呼ばれるようになった。昭和8年

（1933）にはポチクラブ（全世界の愛犬家組織）の名誉会員に推薦されたり、昭和11年（1936）には「オンヲ忘レルナ」と題して、尋常小学校の修身二巻にも載せられるほどであった。

渋谷の住民からはハチが元気なうちに銅像を建立しようとの声上がり建設が具体化していった。昭和9年（1934）正月には、有志者によって「忠犬ハチ公銅像建設趣意書」が出来上がり、3月10日には神宮外苑の日本青年館で、建設基金募集の夕が開かれ3,000人の人が忠犬ハチ公を一目見ようと集まった。当のハチ公も体をきれいにしてもらい、紅白の顎紐でおめかしして晴れ晴れとした姿を集まった人々に見せていたという。

これに呼応して、全国各地から好意の寄付が寄せられ、台座の高さ180cm、ハチ公像の高さ162cmの立派な銅像が渋谷駅の改札口前に建設され、昭和9年（1934）4月21日、除幕式が行われた。これには博士の未亡人、各界の名士など約300人が参加し、ハチはこの一部始終を吉川駅長に連れられじっと見守っていたとのことである。

5月10日には、銅像作者である帝展審査員安藤照氏の手による鑄造「忠犬ハチ公臥像」が当時話題の渋谷駅に出向けない天皇・皇后両陛下に献上された。生前に銅像が作られ、しかも塑像が宮中に供されるというのは、人を含めても前代未聞のことであった。

## （3）大館駅前のハチ公銅像の建設

東京の渋谷に忠犬ハチ公の銅像が建設されることを知った大館では、木村泰治氏が発



起人となり、有志が渋谷の「忠犬ハチ公銅像」と同一原型のものを大館駅前に建設した。



初代の大館駅前に建つ忠犬ハチ公銅像

昭和11年(1936)9月20日撮影

(写真提供:大館市)

後ろの建物が保線区舎で左手側に駅舎がある。

除幕式はハチが亡くなった年の昭和10年(1935)7月8日に行われた。

大館駅前のハチ公像は、現在、駅から降りてくる人を迎えるように駅舎に顔が向かっているが、初代の銅像は現駅舎の左側にあった保線区舎の前で広場を向いて建っていた。

渋谷と同様に秋田犬の街のシンボルとして、多くの人々に愛されたが、昭和20年(1945)、渋谷の銅像と同様に太平洋戦争の金属回収令により撤収されてしまい、わずか10年足らずの短い存在であった。

戦後の昭和23年(1948)8月15日、渋谷駅前のハチ公銅像は多くの人々の寄付と熱意によって、初代を作った安藤照氏の長男の手により制作され再建されたが、大館駅前の銅像の再建は実現できなかった。その代わりとして、昭和39年(1964)5月ハチの若い頃の姿を中心に「秋田犬群像」が駅前に建設された。

その後、20年を経てハチの没後50年の節



大館駅に向かい乗降客を送迎する  
忠犬ハチ公銅像 (筆者撮影)

右後ろに一部見えるのが秋田犬群像

目に当たる昭和59年(1984)に、銅像の再建に向けて「忠犬ハチ公銅像再建の会」が大館市観光協会の提唱で結成され、広く募金活動が行われることとなった。

そして、昭和62年(1987)11月14日、63年ぶりに生まれ故郷に帰ってきた剥製のハチを迎えて、大館駅前で除幕式が行われ、42年を経過してハチ公銅像が蘇ることとなった。

また、この約10ヶ月前の2月3～5日には、映画「ハチ公物語」のロケが大館で行われ、封切り後は多くの人々に感動を与えた。

#### (4) 秋田犬会館前のハチ公銅像の建設

初代の忠犬ハチ公が鎮座していた台座は銅像が戦争により撤収された後、しばらくして駅前から当時の町長宅へ、そして、秋田犬会館へと転々としたが、運良く失われることは

なかった。そして、忠犬ハチ公生誕八十周年を機に復活を願う市民から集まった約230万円など計400万円をかけて、県内の彫刻家松田芳雄氏の手による銅像の制作が始まった。



秋田犬会館前の「望郷のハチ公像」  
(写真提供：(社)秋田犬保存会 松川 擴氏)

平成16年(2004)10月10日、59年ぶりに大館駅前前の初代ハチ公が使用していた台座が秋田犬会館の入り口前に設置され、その上に「望郷のハチ公像」鎮座することとなった。

ちなみに、この望郷のハチは上野博士と過ごした東京の渋谷方向を向いているといわれている。

大館市民のシンボルであるハチは、町を歩くと足元にも次の写真のようなかたちであちこちに見ることができる。

昭和10年(1935)外国にまで紹介されたこともあるハチは、1990年代日本で過ごし、米国カリフォルニア在住の作家であるパメラ・S・ターナー婦人による「Hachiko」が翻訳され、フレーベル館から平成17年(2005)2月に出版された。かつて、外国にまで話が伝わったハチは子供向けの絵本として里帰りを果たしたように思われる。

本稿の執筆にあたっては、大牟田市教育委



大館市の歩道のアクセント (筆者撮影)



大館市のマンホールの蓋 (筆者撮影)

員会生涯学習課、大牟田市産業経済部産業振興課、大館市産業部観光物産課、社団法人秋田犬保存会にご協力をいただいた。

ご高配をいただいた次の方々に厚く感謝申し上げます。

(大牟田市)

中村 渉氏 (大牟田市教育委員会文化担当)

池田 祐輔氏 (大牟田市産業振興課課長補佐)

松本 浩一氏 (大牟田市産業振興課主査)

田嶋 教弘氏 (元大牟田市産業振興担当部長)  
(大館市)

若松 俊一氏 (大館市観光物産課係長)

松川 擴氏 ((社)秋田犬保存会事務局長)